

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500081		
法人名	社会福祉法人 きずな会		
事業所名	グループホーム きずな (ユニット1)		
所在地	二海郡八雲町立岩409番地13		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者様間、入居者様・職員間のコミュニケーションに力を入れている。(日々のレクリエーションや月に一度の行事などを通じて。) 外部の研修には、積極的に参加している。 外部より講師を招き、リハビリテーションの講習を行い日々の介護に役立てている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500081&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年3月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、自然豊かな酪農地帯の中に立地している。運営者は、医療連携体制を整えたり、職員の育成に熱意を持って取り組んでいる。事業所内は天窓から陽が差し込み清潔感があり、中央の中庭に沿って廊下が回廊式になっているので開放感があり、そこでリハビリを行うなど、利用者の身体機能低下の防止に役立っている。事業所周辺に民家は無いが、町内会活動に参加したり、ボランティアの受け入れなどを活発に実施し、事業所が孤立することがないよう努めている。利用者一人ひとりのペースに合わせ、その人らしい生活ができるよう支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、玄関内・ホール中央・休憩室に掲示し、常に目を通す様心掛けている。	利用者の尊厳と主体性を主眼とした、事業所独自の基本理念を作成し、職員は全体会議で意識の統一を図り実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア(カラオケ同好会・若人の集い・町内会敬老会・保育園児)の方々が来所され交流を図る様、努めている。	保育園児来所による遊戯披露や、カラオケ同好会などのボランティアが訪れている。また、利用者が町内会の敬老会に招かれるなど、地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や実習の場で、説明や理解を得る様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様や地域の方々から助言や意見を頂き、サービスの向上に向けて活かしている。	運営推進会議は、地域、行政、家族など各方面の構成員が参加して開催している。会議では、事業所の行事活動や運営状況、災害対策など多岐にわたり協議し、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や支援事業所の方々ที่訪問した際は、積極的に伝え協力している。	介護担当者や生活保護担当者、社会福祉協議会には、相談、研修会の情報交換を行い、利用者の近況などを伝え、良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、ケアの内容を職員同士話し合い取り組んでいる。	身体拘束をしないケアへの意識は高く、外部研修に参加した職員が講師となり、内部研修を実施している。日常のケアにおいても職員同士が話し合い、確認し合いながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎に研修などに参加し、職員同士で日々のケアについて話し合うなど、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの担当者等と、必要時事例の検討等話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立って、十分に時間を掛けて説明ややり取りを行い、利用者様や御家族様が不安や疑問がない様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な交流の場で行い、月1回の職員会議で情報を流したり、運営推進会議の場で反映させている。	家族の来訪時には声かけをしたり、遠方の家族には月1回、利用者の近況報告と一緒に要望や意見を聞く便りを郵送している。出された課題は、チームで話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議の場で、情報交換を行い反映させている。	ユニットごとに職員が発言できる機会を設け、出された提案は管理者に伝え、職員会議で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績を考慮し、賞与に反映する仕組みを作り、向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、作業療法士(八雲総合病院より)の方を講師に招き、研修を受ける機会を多く設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通し同業者との交流を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や御家族様が抱える問題や不安な事、要望等に耳を傾けながら感情も共感し、理解する様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の気持ちを受容し、信頼関係を構築する様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や御家族様が抱える問題が、援助者・施設・機関などの機能で、解決や緩和が出来るかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家庭的な雰囲気の中で、その人に合ったケアし 喜怒哀楽を共有できる関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて相談等、話し合い共に支え合う関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも馴染みの関係が継続する様、面会・電話の制限をせず支援している。	地域に暮らす馴染みの知人、友人に電話を取次いだり、手紙を代筆したりしている。帰宅願望がある利用者に対しては、家族と相談し、一時帰宅などの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に交流の場を増やし、利用者様同士新しい交流が持てる様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で個々の思いを把握する、表情の変化、言動、行動等を見逃さない様努めている。	利用者の個性や思いを把握し、その人らしく暮らせるよう言葉や表情などから真意を汲み取り、支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、一日の暮らし方を御本人様、御家族様からの情報を活用し日々のケアに反映出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の中で、出来る事、出来ない事を把握し、個々のペースに合わせて支援する様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のアセスメントシートを活用して、職員間で話し合い御本人様、御家族様の意見や要望を取り入れ、御本人様に適したケアプランを作成している。	カンファレンスで職員や本人、家族の意見と要望を取り入れ、サービス担当者会議で意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活をどの様に過ごしているか、個々の特徴や変化を記録し情報を共有し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ対応し、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を利用し、個々の状況に合わせて対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診に来て頂ける医療機関を確保している。受診に関しては、御本人様、御家族様の希望の医療機関で受診している。	看護職員を中心に利用者の健康状態を把握し、協力医の往診や緊急時、夜間対応など、医療機関とは常に連携している。遠方の受診は家族の同行もあり、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がある際は、看護師に相談し助言を受け必要がある場合は、早期に受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に2度の往診や各入居者様個人の細めな受診をする事により、病院関係者との情報交換や相談は出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所で出来る支援を、御本人様、御家族様に説明している。	看取りについて契約時に、家族には説明し同意を得ており、事業所としての方針を明確にしている。看護師である総合施設長が終末期のあり方についての内部研修を行い、職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、マニュアルを全職員が把握し実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署との連携で防災訓練を行っている。	年2回、消防署の協力の下、全利用者参加の夜間想定を含んだ通報訓練、避難訓練をしている。非常用食料や物資を備蓄している。事業所周辺は住宅がなく、地域住民の協力や訓練の参加までには至っていない。	運営推進会議でも災害時の理解と協力を依頼しており、地域と協力体制を築くことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様より低い目線で敬語で会話をしたり、トイレの声掛けなども耳元で会話をする様に努めている。	職員は利用者一人ひとりに応じて、声かけや失禁時の対応に配慮し、人格を尊重したケアを実践している。個人の記録は一定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団の中で相談事を聞くのではなく、入居者様と職員2人だけの時間を作り、ゆっくりと話を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の訴えは何事にも耳を傾け、職員からの訴えで拒否がある場合は無理をしない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、衣類、その他、おしゃれが出来る物の要求がある時は、支援する様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の素材を選び献立に季節感を出したり、入居者様と一緒に考えたりしている。	カボチャ団子づくりや芋の皮むきなど在宅当時に思い出しながら調理に携わり、盛り付けや味見をしてもらうなど、利用者のできることを見極めて職員と一緒にしており、食事に対して関心を持つよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量が足りない事のない様に、注意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の見守りや介助、週一回義歯の消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	規則的な排便を習慣づけ、時間でトイレの誘導の声掛けを行い支援している。	一人ひとりの生活リズムを把握し声かけ、トイレ誘導、手引き歩行など、失禁防止に取り組むと共に、トイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事摂取量を十分にとり、腸を刺激する為の腹部を「の」字マッサージなどを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の清潔を保つのと、全身観察など利用者様との信頼関係を築き、コミュニケーションをとりながら支援している。	浴室内は常に暖かくし、浴槽も大きく手すりも完備しており、仲の良い人同士一緒にゆっくりと入浴している。拒否傾向がある利用者には時間や職員を変えるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活環境を整えると共に、心身を安楽に適切な援助や生活のリズムを整えられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示、薬物に対する基本的知識を十分に理解する様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合う日常生活の仕事を声掛けし、一緒に行ったり促したりし支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と散歩したり、面会時ご家族様の希望があれば外出などをさせ支援している。	天気の良い日は事業所周辺を散策したり、畑の手入れや花壇づくりなどを楽しんでいる。また、本人の希望で家族と一緒に外食するなど柔軟に支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の上、いくらかを本人(3,000円)で持ち、残りは希望によって施設が管理し支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、職員が希望の相手の番号をダイヤルしてから、受話器を渡しやり取りが出来る様支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリーで利用しやすく、季節によって飾り付けなどをし工夫している。	事業所の中心に中庭があり廊下が回廊式で足元誘導灯があり、不快な臭いや音もなく、明るく開放感のある共有空間である。利用者と職員が一緒にしたフロアの飾り付けは季節感があり、家庭的な雰囲気となるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルやソファがあり、入居者様が自由に使える様にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自由に利用してもらっている。	居室はクローゼットとベットが備え付けてあるが、利用者は自宅から仏壇やタンスを持ち込み、写真や花を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は側で見守り、出来る事は自分でやってもらう様にしている。			